

めぐろ 区議会だより

今号の目次

代表質問	2、3面
一般質問	4、5、6面
最近の委員会の主な議題	6面
平成26年度予算案に対する討論	7面
審議した議案等の結果と各会派の賛否	8面

No.236

(2014年4月19日号)

発行/目黒区議会事務局

〒153-8573

目黒区上目黒2-19-15

電話:03-5722-9415

http://www.city.meguro.tokyo.jp/



目黒川の桜

**区民の暮らしの安全と安心を確保する施策を的確に進めていく
平成26年度予算、ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を
求める意見書、容器包装リサイクル法改正を求める意見書ほかを可決
(平成26年第1回定例会)**

定例会の概要

平成26年第1回目黒区議会定例会は、2月20日(木)から3月25日(火)までの34日間の会期で開催しました。

開会初日には、区長から、「暮らしの安全と安心を確保する」、「地域の力を生かして、まちの魅力を高める」、「社会経済状況の変化に耐えうる行財政基盤の確立」の3点を基本姿勢として区政を運営していく旨の所信表明があり、これを受けて、2月20日、21日の2日間にわたり、各会派から5名の議員が代表質問を行いました。また、第3日目(2月24日)、第4日目(2月25日)の2日間で、10名の議員が区政の課題について一般質問を行っています。

今回の定例会では、議長を除く32名の議員で構成する予算特別委員会(伊藤よしあき委員長、佐藤ゆたか副委員長)を設置し、7日間にわたって平成26年度目黒区各会計当初予算案を審査しました。予算特別委員会開催中の3月11日には、東日本大震災で犠牲になった方々に対し、議員、区理事者全員で黙祷をささげました。

区長から提出された平成26年度予算案を含む議案25件は、審議の結果すべて原案どおり可決しました。陳情は付託した各委員会で審査を行ったものについて2件を採択、1件を不採択としたほか、4件を継続審査としました。

議員提出議案では、3月10日に「ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書」を、3月25日には「容器包装リサイクル法改正を求める意見書」を全会一致で可決しています。

第1回定例会で審議した議案等

◆区長提出議案

条例	14件
平成25年度補正予算	4件
平成26年度予算	4件
区有通路路線の認定	1件
協議	1件
任命の同意	1件

◆諮問

諮問	1件
----	----

◆議員提出議案

意見書	2件
-----	----

◆議員の派遣

派遣	1件
----	----

◆陳情審査の結果

採択とした陳情	2件
不採択とした陳情	1件
継続審査とした陳情	4件

詳細は8面に記載しています。

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成は、現在、肝炎治療特別推進事業として実施されているが、対象となる医療が、B型・C型肝炎の根治を目的としたインターフェロン治療とB型肝炎の核酸アナログ製剤治療に限定されているため、医療費助成の対象から外れている患者が相当数に上る。特に、肝硬変・肝がん患者は高額な医療費を負担せざるを得ないだけでなく、就労不能の方も多く、生活に困難を来している。

また、肝硬変を中心とする肝疾患も身体障害者福祉法上の障害認定(障害者手帳)の対象とされているものの、医学上の認定基準が極めて厳しいため、現在の制度は、肝炎患者に対する生活支援の実効性を発揮していないとの指摘がなされている。

平成23年12月、特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法の制定時には、「とりわけ肝硬変及び肝がんの患者に対する医療費助成を含む支援の在り方について検討を進めること」との附帯決議がなされた。しかし、国に

おいては、肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成を含む生活支援について、何ら新たな具体的措置を講じていない。

肝硬変・肝がんにより毎年約4万人の方が亡くなっており、医療費助成を含む生活支援の実現は、緊急な課題である。

よって目黒区議会は、国会及び政府に対し、下記の事項を実現するよう強く要望する。

- 1 ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設すること。
- 2 身体障害者福祉法上の肝機能障害による身体障害者手帳の認定基準を緩和し、患者の実態に応じた認定制度とすること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成26年3月10日

目黒区議会議長 橋本欣一
衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣 あて